

8 研究授業（第一回、第二回）について

第一回研究授業（校内研修）について

小学部は自立活動、中学部は自立活動と生活単元学習、高等部は作業学習について、研究授業を行いました。

小学部は学習に必要な基本的な力を育てるために、よく見て手を使うことをねらいました。（【自分で】）
中学部はそれぞれ学級の実態に応じて、まずは学習の見通しと意欲をもって取り組み、個別の目標に向かって頑張り、自分で振り返りました。（【目標をもつ】）
高等部は作業学習の場面を通して、機械や道具を安全に、教師にしっかり報告確認を受けつつ、自分の仕事を最後まで取り組み、実態に応じて自分のできる活動場面で力を発揮できるようにしました。（【責任をもつ】）

授業後は、学部ごとに「授業の振り返り」を行いました。そして今回も福島大学客員教授の内山登紀夫先生に指導助言をいただきました。生徒数名についても個別に詳しく助言をいただきました。生徒の力をよく見極め、活動内容を精査することや、生徒が今どんな状態にあるのかを考慮し、環境等を整えていくことの重要性等について質疑応答を通して考えました。



第二回研究授業（一般公開）について

12月14日水曜日、今年度の授業一般公開と講演会を行いました。今回も福島大学客員教授の内山登紀夫先生から指導助言とご講演を頂きました。

内山先生からは、コミュニケーション（表現力）で目指すことは、「自己肯定感・安心感・達成感・充足感」であり、「穏やかで幸せな暮らし」というお話をいただきました。また、やりとりの中にいろんな要素を盛り込みすぎないようにし、児童生徒が何に注目すれば良いか、教師は何を伝えたいのかを明確にすること。その際、視覚支援が大事になるが、説得や管理のための手段ではなく、気持ちが前向きになり、満足するための分かりやすさ、理解のために用いるというお話をいただきました。

そして授業についてVTRを視聴しました。「教師の役割分担について整理し、複数の教師が同時に発信しないように、情報をシンプルにすること、内容を盛り込みすぎないようにし、整理すると良い。」「発語が少ない生徒に対し、無理に話をさせようとせずに、生徒に合った方法のコミュニケーション手段を用いたり、教師からのシンプルな言葉がけや、身振りなどを用いたりして、目的の活動が充実することを目指して良い。」といったご意見をいただきました。

今回は初めてPTA座談会として、内山先生を囲んでの本校保護者との意見交換会を実施しました。また、「つなげる体制づくり」のひとつとして、つなげるシートを作成し、校内のイントラネットを使って児童生徒の情報の共有を図ります。このことについて、一般参加の方々にも説明させて頂きました。また、OJLに関する取り組みとして、互いに学び合える職場づくりを目指し、教師同士が良いところや特技などを認め合うワークショップについて、また冬期休業中に行う、実技講習会などについて担当者から説明しました。さらに、教師同士の情報共有として今年度校内で行った「教室フリートーク」を一般参加者の皆さんと行いました。



研究授業の様子（小学部）



教室フリートークの様子



分科会の様子



講演会の様子